

学校自己評価報告書

愛媛大学附属高等学校
作成日 平成23年 3月 3日

教育目標	総括
・確かな学力を持つ人材の育成 ・自己発見を通じて学びに対する高いモチベーションを持つ人材の育成 ・地域を担う意欲を持つ人材の育成 ・課題を発見し解決する能力を持つ人材の育成	・附属高校への全面改組により、新しい学校作りへの試みとして、学びへの意欲や、学習に取り組む意識を高める努力を行ってきた。一方で、農業高校時代の良さをいかにうまく継承して、位置づけていくかという課題もある。 ・学習環境の整備により、学習支援を図るとともに、生徒の人間形成のため、学校全体としての体制づくりや様々な支援を行った。 ・愛大GPへの取り組みを機会に、学びへの意欲を高める授業の工夫や研究を実施しているが、より確実なものにしていく努力を行う必要がある。

内容	具体的な目標	評価	成果(○)と課題(△)	改善策
教育課程	○生徒の卒業後の進路を見通した、一貫性のある教育課程の編成を行う。 ○生徒が主体的に選択履修できるような教育課程の編成を行う。 ○学校設定教科・科目を設置し、総合学科としての特色ある教育課程の編成を行う。	B	○高大連携については、一定の評価が得られている。 △教育環境、特に施設設備における要望が強い。 △学習指導目標に向けての計画を明確にする必要がある。	・20年度入学生からの教育課程に基づき、系列ごとの計画表の検討を進める。 ・授業時間の確保を早期に検討する。 ・休業期間の学習活動について、一貫した教育体制を構築する。
教科指導	○指導・評価の方法の工夫と改善 ○確かな学力や学びへの高いモチベーション（学び方の力、学んだ力、学びの表現力）を持たせるため、指導方法の工夫をする。	B	○年間指導計画に基づき、学習指導の改善が図れている。 △ほぼ満足が得られているが、家庭での学習面で十分ではないと感じられる。	・家庭学習、特に継続した自学自習の定着に向けた取り組みを行う。 ・各教科における学びへの意欲を高める授業、確かな学力を持たせる授業の開発を行う。
生徒指導	○基本的生活習慣の確立を徹底させ、社会性や自主性を身につけさせる。	B	○あいさつはよくできており学校の伝統として定着している。保護者からも学校生活について高い評価を得ている。 △服装・規則についてある程度守る意識は持っているが、教職員は守れていないという意識を持っている。	・意識調査については、生徒と教職員の統一を図る。 ・系統的に連携した服装指導を行う。
保健衛生指導	○心身ともに健康的な生活習慣を身につけさせる。	B	○健康診断受診表等を書く生徒に配布した。 ○禁煙防止教育やエイズに関する指導が、各クラスの保健委員を中心にできた。 ○校内清掃に関して、清掃担当者により指導が出来た。 △生活リズム・食生活指導の機会を増やし、健康的な行動が出来る生徒を育てる必要がある。	・職員会議などで、生徒の健康に関して話合う機会を作る。
安全指導	○日々の学校生活の中で、安全面に留意した行動を確立させる。 ○道路交通法を理解した上で、安全運転を实践させ、かつ徹底させる	C	○生徒は一定の評価をしている。 △交通ルールやマナーが十分に守られているとはいえない。	・交通ルール・マナーに対する意識の向上を図る。

教育相談	○生徒の抱える諸問題の解決・改善に向けて。本人・保護者・教師への助言、指導などの援助を行う。 ○附属学校園と連携を取りながら、特別支援教育の強化を図る。	B	○担任・学年主任・外部の専門機関との連携が図れるように努力できた。 ○来年度、臨床心理士の来校による相談が可能になった。 △早期の対応が出来るような学校システムを作る必要がある。	・教員間の連携を図り、連携を深めるための機会を設定する。
進路指導	○適正な進路を自主的に選択決定できる能力を養い、その進路実現に向けて努力させる。 ○総合大学である愛媛大学の附属高校という特性を活かし、大学と連携した教育(高大連携プログラム)の推進し、生徒の進路実現を図る。	A	○高大連携授業等を通じて、大学への理解を深めることが出来た。 △普通科と比べて、普通教科の授業時間も少なく、受験指導も他校ほど行っていない。専門教育・高大連携授業、全教科でのプロジェクト学習を通して、学びへのモチベーションと確かな学力を両立させるかが課題である。	・年3回指定日を設けて統一テーマの進路指導を行う。 ・面接週間を設けて、多くの教員が関わる。
現職教育	○教職員の資質や指導力の向上を目指すため、研修の体系化と効果的な推進を図る。 ○創意ある教育活動の推進のため、先導的な研究を行う	C	○各教科での授業研究や校外での研修会に参加し、その成果を報告できた。 △外部講師による研修会ができなかった。	・プロジェクト学習などの授業研究の状況を互いに知る機会を増やす。 ・外部研修会の報告や教科の外部研究会へ参加し、研鑽を積む。
図書指導	○課題学習・プロジェクト学習等において、積極的な図書室利用の推進を図る。 ○利用しやすい配架・環境作りの推進を図る。 ○図書委員会活動の活発化する。 ○『朝読書』を充実させる。	C	○図書委員の活動はよくできている。図書担当の教員が少ないのによくやっている(最低3人は必要である) △蔵書の種類、授業やHRでの活用が十分でない。 △朝の読書の実施があまりなされていない。漠然と読書させるのではなく、計画を立てさせ、実践記録を残させる。	・校内の推薦図書100冊を選び、卒業までに読破させる。 ・読書案内、読書記録、読書集計表、読書量のグラフなど、個人の実践記録を書かせる。
高大連携	○大学の教育内容を知り、将来のテーマを探究させる。 ○テーマ別の講義を通じて、地域への意識を高めさせる。 ○高大連携授業を通じて、大学への理解を深めさせる。 ○大学の授業を受けさせることで大学の学びを経験し、充実した大学生活を考えさせる。 ○大学教員の指導のもとで、課題研究を行うことで、自らの興味・関心・適性を認識させる。	A	○高大連携授業の実施により、大学における学びや研究への興味と理解が深まり、学習の意義を理解し、積極的に取り組む態度が培われている。 △高大連携プログラムの意義についての共通理解が十分ではない。 △高大連携プログラムによって培われた様々な能力が、高大接続の問題をどれだけ解消しうるか。	・高大連携教育プログラムに関する発表、公開講座シンポジウム、研究会への積極的な参加をさらに充実させることで、共通理解を深める。 ・教育研究発表会を実施し、本校と愛媛大学とによる、高大連携教育の取り組みを全国に発信する。
特別活動	○学校行事などの特別活動を通じて望ましい人間関係を形成する。	B	○生徒会が積極的に活動し、充実した学校行事が出来た。 △学習活動と部活動の両立をどう図ればよいか課題である。	・部活動と学習との両立を図るため、例えば活動時間数の確保の方法などを検討する。
国際理解	○愛媛大学やNPO法人などの協力の下、諸外国との交流活動に積極的に参加することによって、国際理解・異文化理解教育を推進する。 ○持続可能な社会の実現に向けて、積極的にボランティア活動等に参加させることによって、社会の一員としての自覚を促す。	C	○国際課としての方向性が確認できた。 △大学やNPOとの協働で、様々な活動を推進していく必要がある。	・大学やNPOとの協働で、様々な活動を推進していく